



## 平成25年度の自然学校を振り返って Part 3

前回の14号は、平成25年度と平成24年度の「活動状況」の対比から、木(竹)伐採作業に絞り、今年度の自然学校を振り返ってみました。今回は、それ以外の気になる点について、考えをまとめてみました。

### ☆ 施設散策オリエンテーリング ☆

#### ねらい…① 施設内の位置関係を把握する

南但馬自然学校の施設内(自然散策路は含まない)をオリエンテーリングしながら散策し、各エリア(本館エリア・生活棟エリア・キャンプ場エリア)及び建物の配置(どこに何があるか)、各エリアをむすぶ経路(通路)を知る。

#### ② 自然学校1日目のアプローチとする

イニシアティブゲーム・ネイチャーゲーム等を組み入れ実施することで、自然や人とふれあうことへの意識づけ(動機づけ)を図る。



上記のねらいで、入校後の最初の活動として7割弱の学校が取り組んでいます。「南但馬に残された謎の暗号文を解読せよ!」のミッションのもと、子どもたちは、「ポイントの地図」を見ながら、施設内に設置された①~⑩のポイントを探します。ポイントに記された文字(ひらがな1字)を、ワークシートに記入していきます。2つのポイントでボーナスゲームがあり、そのゲームをクリアすると暗号文を解読するための重要なヒントがゲットできます。私たちが、「班員で協力して。走らない。ポイントに書いてある説明文をしっかりと読む。」

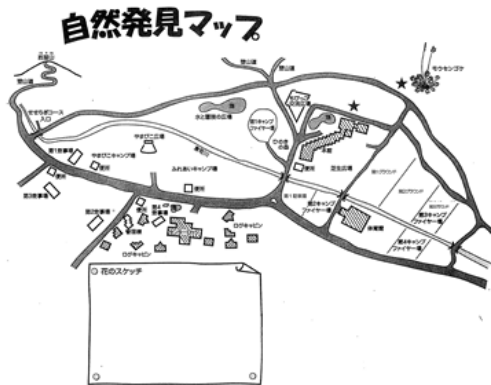
などの注意をして出発させますが、子どもたちにとっては、スリル満点であり、ゲーム感覚で夢中になっているので、それらを聞いてくれないのも無理はないかもしれません。競争ではないのですが、早く20のポイントを見つけ、暗号文を解読することが、班員の協力を高めることに繋がったと錯覚してしまっているところもあります。

活動後、「グループ(班)のみんなと協力できたか?」、「施設内の建物の名前や配置(場所)はわかったかな?」、「自然や人(友達)とふれあえたかな?」、「何か新しい発見があったかな?」などの振り返りができればいいのですが、活動のやりっ放しの学校もあるようです。



南但馬自然学校によく来ておられる先生や指導補助員には、子どもたちの動きが読めて、取り入れやすい活動なのかもしれません。しかし、平成25年5月27日発行の指導課だよりNO, 2にも記載しましたが、本当にこれでいいのか、先生方の思いや願いが子どもたちにしっかりと伝わっているのか、しっかりと考えてみてください。ねらいの一つに、「施設内の位置関係を把握する」があります。結構、ポイントを探すのに時間がかかり、同じ道を何度も通っている班があります。その班の子どもたちは、施設散策オリエンテーリングを通して、工作室や自然観察館等の場所を感覚的に覚えています。しかし、2日目以降の様子を見ていると、先生か指導補助員が子どもたちを引率して、それぞれの活動場所に移動しています。班でそれぞれの場所に移動させるなら、初日に施設散策オリエンテーリングを実施して、生活棟から各活動場所への経路を知る意義は大きいと思います。自然学校で初めて出会う連合小学校での混合班の子どもたちにとっては、日本列島やラインナップのイニシアティブゲームを通して、仲良くなるきっかけとなりますが、普段、同じ教室で学んでいるクラスの

子どもたちにとっては、仲間づくりを目的とした活動になっているのか、疑問になることがあります。緊張を和らげるアイスブレイク程度のゲームでしかありません。もっと、仲間づくりを意識させるのなら、さらに難しい課題を与え、試行錯誤を繰り返しながら課題を解決させるウォールなどのイニシアティブゲームだけに取り組みさせた方が、子どもたちの変容は大きいと言えます。



冬用シール見本

秋の夕がり (木の葉の盛り期)	動物のあしあと	葉の木・木の木	冬イチゴを見つけて食べてみよう
雪のスケッチ	雪のらん 色別	不自然なもの の口を括弧で	川のせせらぎの音
★自然の家の人気 もの「イノアタ」の 名前は何?	冬を感じて一句	本館前の池には 何が泳いでいるかな?	ヤブコウジ
風の冷たさ	冬を感じるもの (雪・氷・霜・霧)	咲いている花 色別 名前	本日のスペシャル
予想気温 度			
冬			

左図とワークシートは、組合立丹波少年自然の家での「自然発見ビンゴ」で用いられているものです。施設散策が目的ではなく、あくまでも五感を用いての自然体験が活動のねらいです。  
自然にふれあう活動の導入となっています。

本校のお勧めの活動の一つに、「自然観察ビンゴ」があります。組合立丹波少年自然の家の「自然発見ビンゴ」と同じようなねらいではありますが、残念ながら、本校の敷地の一部しか回らなくても済んでしまうという欠点があります。子どもたちに、「施設内の位置関係を把握する」というねらいを達成させることはできません。



そこで、「ゲレンデリサーチ」は、どうでしょうか。施設散策オリエンテーリングで使用している左図を子どもたちに渡し、それぞれのポイントでの施設の外観や自然など、子どもたちが見たまま、感じたままに自由に記入させ、お互いにそれぞれの情報を共有し合うのです。子どもたちの感性や表現力が違うので、意外なものを発見するかもしれません。

そこで、「ゲレンデリサーチ」は、どうでしょうか。施設散策オリエンテーリングで使用している左図を子どもたちに渡し、それぞれのポイントでの施設の外観や自然など、子どもたちが見たまま、感じたままに自由に記入させ、お互いにそれぞれの情報を共有し合うのです。子どもたちの感性や表現力が違うので、意外なものを発見するかもしれません。

☆ キャンプファイヤー ☆

キャンプファイヤーは、子どもたちに人気のある活動の一つです。ボンファイヤー、カウンスルファイヤー、指導補助員任せのものから各班・各学級によるスタンツ発表など、様々な内容や形態で実施されています。

スタンツ練習(上段は実施団体数・下段は割合%)

0回	1回	2回	3回	4回	合計
22	16	9	4	2	53
41.5%	30.2%	17.0%	7.5%	3.8%	100.0%

人間は、火を見ると非常に興奮しますが、動物たちは火を恐れる習性があります。動物の夜の世界を乱すことから、キャンプファイヤーを好まない人も若干います。キャンプファイヤー実施の是非について

では、意見が分かれるかもしれませんが、自然学校実施期間中にスタンツ練習を4回もすることは、大いに問題があると思います。子どもたちの自主性のもと、じっくりと考え、練習をさせたいという考えも理解できますが、活動と活動の合間に、時間つなぎのためにスタンツ練習を計画している学校があります。ゲームやダンス、歌で盛り上がり思い出に残るボンファイヤーもいいですが、家を離れ友だちと過ごしてそれらを振り返り涙ぐむランタンファイヤーやナイトハイクで鹿の「キー、ピー、ヒュー」という鳴き声を聞いても、一生の思い出になると思います。

編集後記 随分

今年度、最後の指導課だよりです。当然、異論もあると思いますが、前年度の踏襲でプログラムを組むのではなく、活動のねらいから考え直すきっかけになれば幸いです。

(文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也)